

Novell ZENworks Endpoint Security Management 3.5

2008年8月18日

1 概要

このドキュメントでは、Novell® ZENworks® Endpoint Security Management 3.5 に関する問題について説明しています。

- ◆ インストール手順については、『ZENworks Endpoint Security Management インストールガイド』を参照してください。
- ◆ 管理タスクについては、『ZENworks Endpoint Security Management 管理ガイド』を参照してください。

2 確認されている問題

この項では、ZENworks Endpoint Security Management で発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 2 ページのセクション 2.1 「インストール」
- ◆ 3 ページのセクション 2.2 「アプリケーションのブロック」
- ◆ 4 ページのセクション 2.3 「クライアントセルフディフェンス」
- ◆ 4 ページのセクション 2.4 「通信ハードウェアの制御」
- ◆ 5 ページのセクション 2.5 「データの暗号化とパフォーマンス」
- ◆ 6 ページのセクション 2.6 「New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード)の使用」
- ◆ 7 ページのセクション 2.7 「Novell eDirectory 用のディレクトリサービスの設定」
- ◆ 8 ページのセクション 2.8 「Microsoft Active Directory のディレクトリサービスの設定」
- ◆ 8 ページのセクション 2.9 「エンドポイントセキュリティの確保」
- ◆ 9 ページのセクション 2.10 「ファイアウォール」
- ◆ 9 ページのセクション 2.11 「ローカリゼーション」
- ◆ 10 ページのセクション 2.12 「管理コンソール」
- ◆ 11 ページのセクション 2.13 「ネットワーク環境」
- ◆ 11 ページのセクション 2.14 「レポート」
- ◆ 11 ページのセクション 2.15 「Storage Devices」
- ◆ 12 ページのセクション 2.16 「アンインストール」
- ◆ 12 ページのセクション 2.17 「アップグレード」
- ◆ 13 ページのセクション 2.18 「VPN 接続」

- ◆ 13 ページのセクション 2.19 「Wi-Fi 接続」
- ◆ 14 ページのセクション 2.20 「ZENworks Endpoint Security Client」

2.1 インストール

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のインストール時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 2 ページの 「Windows Server 2008 はサポートされていません。」
- ◆ 2 ページの 「Active Directory 内のデバイスに対する管理コンソールのインストール」
- ◆ 2 ページの 「Windows XP 64 ビットオペレーティングシステムはサポートされていません。」
- ◆ 2 ページの 「ZENworks Endpoint Security Management Server での SQL 2005 および SQL 2008 の使用」
- ◆ 2 ページの 「SQL Server Express 2005 と SQL Server Express 2008 はサポートされていません。」
- ◆ 3 ページの 「DS_STDSDB_User アカウントのパスワードに対する特殊文字の使用」
- ◆ 3 ページの 「SQL Server 2005 を使用している場合は、[パスワードは要求する複雑さを満たす] を適用するパスワードポリシーが、ドメインセキュリティポリシーで無効になっていることを確認してください。」

2.1.1 Windows Server 2008 はサポートされていません。

Microsoft* Windows Server* 2008 では IIS の新しいバージョンが使用されているため、ZENworks Endpoint Security Management Server のコンポーネントをインストールできません。

2.1.2 Active Directory 内のデバイスに対する管理コンソールのインストール

管理コンソールのインストール先のデバイスは、構成する Active Directory* ドメインのメンバであるか、少なくともそのドメインとの間に信頼関係が存在している必要があります。

2.1.3 Windows XP 64 ビットオペレーティングシステムはサポートされていません。

ZENworks Endpoint Security Management は、Windows* XP 64 ビットオペレーティングシステム上では動作しません。32 ビット OS 上の 64 ビット CPU はサポートしています。現時点では、Microsoft Vista* はサポートされていません。

2.1.4 ZENworks Endpoint Security Management Server での SQL 2005 および SQL 2008 の使用

ZENworks Endpoint Security Management で SQL 2005 および SQL 2008 を使用する方法の詳細については、[TID 3466284 \(http://www.novell.com/support/supportcentral/supportcentral.do?id=m1\)](http://www.novell.com/support/supportcentral/supportcentral.do?id=m1) を参照してください。

2.1.5 SQL Server Express 2005 と SQL Server Express 2008 はサポートされていません。

ZENworks Endpoint Security Management サーバおよびスタンドアロンの管理コンソールは、SQL Server* Express 2005 と SQL Server Express 2008 ではサポートされません。

2.1.6 DS_STDSDB_User アカウントのパスワードに対する特殊文字の使用

DS_STDSDB_User アカウントのパスワードに特殊文字を使用すると、その特殊文字は設定ファイル内で変更されます。たとえば、@ は設定ファイル内では A に変更されます。サーバとデータベースとの間の通信は正常に機能します。しかし、OSQL のトラブルシューティングを行うときは、特殊文字を指定したパスワードではなく、設定ファイルに記載されているパスワードを使用する必要があります。

2.1.7 SQL Server 2005 を使用している場合は、[パスワードは要求する複雑さを満たす]を適用するパスワードポリシーが、ドメインセキュリティポリシーで無効になっていることを確認してください。

SQL Server 2005 に接続する際は、[パスワードは要求する複雑さを満たす] を適用するパスワードポリシーが、ドメインセキュリティポリシーで無効になっていることを確認してください。ZENworks Endpoint Security Management for SQL で作成されたアカウントには有効期限がないため、インストール後にこのポリシーを再度有効にすることができます。

このポリシーがあると、SQL Server 2005 で作成される SQL アカウントはこの制限事項のために失敗します。このポリシーが無効になっていない場合、ZENworks Endpoint Security Management をインストールすることはできません。DS_STDSDB_User アカウントを作成するときにこのポリシーが無効になっていない場合、STDSDB 用に入力されたパスワードが正しくないことを通知するメッセージが表示されます。

回避策 : 設定ファイルを使用すると、ユーザアカウントを手動で作成できます。

2.2 アプリケーションのブロック

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のアプリケーションブロックを使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 3 ページの「アクティブなアプリケーションのブロック」
- ◆ 3 ページの「ネットワークアクセスのブロック」
- ◆ 3 ページの「ネットワーク共有を使用しているアプリケーションのブロック」
- ◆ 4 ページの「ネットワークドライブ共有から開始されたアプリケーションのブロック」
- ◆ 4 ページの「アプリケーションのブロックとセーフモード」

2.2.1 アクティブなアプリケーションのブロック

アプリケーションの実行をブロックしても、エンドポイントですでに開かれているアプリケーションはシャットダウンされません。

2.2.2 ネットワークアクセスのブロック

アプリケーションへのネットワークアクセスをブロックしても、エンドポイントでネットワークデータをストリーミングしているアプリケーションへのアクセスは停止できません。

2.2.3 ネットワーク共有を使用しているアプリケーションのブロック

アプリケーションへのネットワークアクセスをブロックしても、ネットワーク共有からデータを取得しているアプリケーションへのアクセスは停止できません。

2.2.4 ネットワークドライブ共有から開始されたアプリケーションのブロック

アプリケーションの実行をブロックしても、読み込みアクセスからシステムブロックされているネットワークドライブ共有から開始されたアプリケーションは実行されます。

2.2.5 アプリケーションのブロックとセーフモード

ネットワークアプリケーションコントロールは、デバイスがセーフモードでネットワークを使用して起動されている場合、機能しません。

2.3 クライアントセルフディフェンス

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のクライアントセルフディフェンスを使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 4 ページの「クライアントセルフディフェンスにはアンインストールパスワードが必要」
- ◆ 4 ページの「CPU スパイクが発生する可能性がある GPO セキュリティポリシーとサードパーティソフトウェア」

2.3.1 クライアントセルフディフェンスにはアンインストールパスワードが必要

クライアントセルフディフェンス機能をフル活用するには、アンインストールパスワードを実装する必要があります。

2.3.2 CPU スパイクが発生する可能性がある GPO セキュリティポリシーとサードパーティソフトウェア

レジストリ、ファイルとフォルダ、WMI、プロセス、またはサービス情報へのアクセスを制御する GPO セキュリティポリシーまたはサードパーティソフトウェアとの対話により、CPU スパイクが発生する可能性があります。ZENworks Endpoint Security Management Client 製品に対して必要なレジストリキーの読み取りおよびリセットを禁止する GPO セキュリティポリシーによって、CPU スパイクが発生する可能性があります。ウイルス対策ソフトウェアおよびスパイウェアソフトウェアでは、STEngine.exe および STUser.exe を制限なしに実行できるように設定することが必要となる場合があります。

2.4 通信ハードウェアの制御

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を使用して通信ハードウェアを制御する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 4 ページの「サポートされているデバイス」
- ◆ 5 ページの「サポート対象デバイスかどうかの確認」

2.4.1 サポートされているデバイス

Widcom ベースの Bluetooth* ソリューションはほとんどがサポートされています。次のデバイスがサポートされています。

- ◆ Microsoft 標準タイプの GUID {e0cbf06cL-cd8b-4647-bb8a263b43f0f974} を使用するデバイス
- ◆ Dell* USB Bluetooth モジュール、Dell タイプの GUID {7240100F-6512-4548-8418-9EBB5C6A1A94} を使用するデバイス
- ◆ HP*/Compaq* Bluetooth モジュール、HP タイプの GUID {95C7A0A0L-3094-11D7-A202-00508B9D7D5A} を使用するデバイス

2.4.2 サポート対象デバイスかどうかの確認

- 1 Regedit を開きます。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Class に移動します。
- 3 上記 GUID キー (4 ページのセクション 2.4.1 「サポートされているデバイス」に一覧されているもの) を検索します。Microsoft キーは、複数のサブキーが含まれていないと有効ではありません。

2.5 データの暗号化とパフォーマンス

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のデータ暗号化を使用する際に発生する可能性があるパフォーマンスの問題について説明します。

- ◆ 5 ページの「Windows 2000 SP4 および Windows XP SP1 上でのデータ暗号化の使用」
- ◆ 5 ページの「ZENworks ファイル復号化ユーティリティの使用」
- ◆ 6 ページの「暗号化が有効な状態でリムーバブルストレージデバイスにフォルダをコピーする」
- ◆ 6 ページの「アプリケーションが暗号化された RSD に直接保存する場合、パフォーマンスの問題が発生することがあります。」
- ◆ 6 ページの「システムボリュームのセーフハーバーの選択」
- ◆ 6 ページの「[マイドキュメント] フォルダの暗号化」
- ◆ 6 ページの「RSD 暗号化されたドライブからセーフハーバー暗号化された固定ドライブに複数のファイルをコピーする」
- ◆ 6 ページの「セーフハーバーを有効化すると 2 回の再起動が発生する」

2.5.1 Windows 2000 SP4 および Windows XP SP1 上でのデータ暗号化の使用

ZENworks Endpoint Security Management は、フィルタマネージャのサポートが必須であるために、Windows XP SP2 でサポートされます。ZENworks Endpoint Security Management が Windows 2000 SP4 および XP SP1 にインストールされている場合には、オペレーティングシステムが暗号化ポリシーを受信すると、暗号化要求が無視され、管理者にアラートが送信されます。

2.5.2 ZENworks ファイル復号化ユーティリティの使用

ZENworks ファイル復号化ユーティリティは、暗号化されたリムーバブルストレージデバイス上の Shared Files (共有ファイル) フォルダから、保護されたデータを抽出するために使用されます。このシンプルなツールは、サードパーティが Shared Files (共有ファイル) フォルダ内のファイルにアクセスできるように、ユーザからサードパーティに送信できます (ただし、リムーバブルストレージデバイス上に置くことはできません)。

このユーティリティは、製品 DVD、または [Novell ZENworks Endpoint Security Management の Web サイト \(ftp://ftp.novell.com/outgoing/STDECRYPT-NOVELL-Release-3.5.zip\)](ftp://ftp.novell.com/outgoing/STDECRYPT-NOVELL-Release-3.5.zip) から入手できます。

詳細については、『*ZENworks Endpoint Security Management 管理ガイド*』の「ZENworks ファイル復号化ユーティリティの使用」を参照してください。“”

2.5.3 暗号化が有効な状態でリムーバブルストレージデバイスにフォルダをコピーする

複数のファイルとフォルダを含むフォルダを、暗号化が有効な状態でリムーバブルストレージデバイスにコピーすると、通常よりも長い時間を要します。たとえば、弊社のテストでは、38MB のフォルダをコピーするために 5 ~ 6 分間を要しました。

2.5.4 アプリケーションが暗号化された RSD に直接保存する場合、パフォーマンスの問題が発生することがあります。

アプリケーションが暗号化された RSD に直接保存する場合、コンピュータのパフォーマンスにも影響を及ぼす可能性があります (アプリケーションによって使用されるファイル書き込みのサイズに依存します)。

2.5.5 システムボリュームのセーフハーバーの選択

システムボリューム上でセーフハーバーが選択されている場合、コンピュータのパフォーマンスに影響が及ぶ可能性があります。

2.5.6 [マイドキュメント] フォルダの暗号化

[マイドキュメント] フォルダを暗号化すると、アクティブなユーザのみが、自分の [マイドキュメント] フォルダのファイルにアクセスして、復号化できるようになります (他のユーザのフォルダにはアクセスできません)。

2.5.7 RSD 暗号化されたドライブからセーフハーバー暗号化された固定ドライブに複数のファイルをコピーする

RSD 暗号化されたドライブからセーフハーバー暗号化された固定ドライブに複数のファイルをコピーすると、かなりの時間を要する可能性があります。

2.5.8 セーフハーバーを有効化すると 2 回の再起動が発生する

暗号化が最初にポリシー内でアクティブ化される場合、およびセーフハーバーまたはリムーバブルストレージのいずれかの暗号化がアクティブ化される場合 (暗号化のアクティブ化とは別にアクティブ化される場合) は、2 回の再起動が必要です。たとえば、暗号化ポリシーが最初に適用される際には、ドライバの初期化のために 1 回、セーフハーバーを暗号化するためにもう 1 回、合計 2 回の再起動が必要です。ポリシーの適用後に追加のセーフハーバーを続けて選択した場合は、そのセーフハーバーにポリシーを適用するために 1 回だけ再起動が必要です。

2.6 New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード) の使用

この項では、New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード) を使用してディレクトリサービスを設定する場合の一般的な情報について説明します。

Novell eDirectory™ または Microsoft Active Directory* 用の ZENworks Endpoint Security Management の設定に関する固有の情報については、「[7 ページのセクション 2.7 「Novell eDirectory 用のディレクトリサービスの設定」](#) または 「[8 ページのセクション 2.8 「Microsoft Active Directory のディレクトリサービスの設定」](#)」を参照してください。

2.6.1 New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード) での [戻る] ボタンの使用

新しいディレクトリサービスの設定ウィザードで [戻る] ボタンを使用すると、現時点ではデータが消失し、同期が失敗します。誤りがあった場合は、最初からやり直す必要があります。

2.7 Novell eDirectory 用のディレクトリサービスの設定

この項では、New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード) を使用して、Novell eDirectory 用にディレクトリサービスを設定する方法について説明します。詳細については、『[ZENworks Endpoint Security Management 管理ガイド](#)』の「[Novell eDirectory 用のディレクトリサービスの設定](#)」を参照してください。“”

- ◆ [7 ページの 「Novell eDirectory でのポート 389 または 636 の使用」](#)
- ◆ [7 ページの 「ZENworks Endpoint Security Management および eDirectory での Windows 用ディレクトリサービスの使用」](#)
- ◆ [7 ページの 「クライアントは、ユーザベースのポリシーでは展開できますが、コンピュータベースのポリシーでは展開できません。」](#)
- ◆ [7 ページの 「クライアントは、最初のチェックイン時にサーバへのログインを求められる」](#)
- ◆ [8 ページの 「ZENworks Configuration Management を eDirectory および DLU で使用すると、ZENworks Endpoint Security Management クライアントにより、パスワードの入力を求められます。」](#)
- ◆ [8 ページの 「eDirectory ツリーのユーザを移動すると問題が発生する」](#)

2.7.1 Novell eDirectory でのポート 389 または 636 の使用

eDirectory 用にディレクトリサービスを設定する際に、TLS/SSL 暗号化を使用する場合はポート 389 または 636 を使用する必要があります。

2.7.2 ZENworks Endpoint Security Management および eDirectory での Windows 用ディレクトリサービスの使用

現時点では、Windows 用のディレクトリサービスを使用した eDirectory で ZENworks Endpoint Security Management を使用することはできません。

2.7.3 クライアントは、ユーザベースのポリシーでは展開できますが、コンピュータベースのポリシーでは展開できません。

ZENworks Security Client のインストール時に、ディレクトリサービスとして Novell eDirectory を使用している場合は、ユーザベースのポリシーオプションを使用します。

2.7.4 クライアントは、最初のチェックイン時にサーバへのログインを求められる

クライアントが最初にチェックインする際には、ZENworks Endpoint Security Management Server へのログインを求められます。ユーザは、ユーザ名とパスワードを指定する必要がありますが、コンテキストを指定する必要はありません。

2.7.5 ZENworks Configuration Management を eDirectory および DLU で使用すると、ZENworks Endpoint Security Management クライアントにより、パスワードの入力を求められます。

ZENworks Configuration Management を Novell eDirectory および一時的ユーザを有効にした DLU で使用する場合、クライアントが Windows デバイスにログインするたびに、ZENworks Endpoint Security Management サーバから資格情報の入力を求められます。これは、Windows の SID のようなユーザ固有の番号が起動ごとに変更されるためです。

2.7.6 eDirectory ツリーのユーザを移動すると問題が発生する

現時点では、ZENworks Endpoint Security Management サーバには、eDirectory ツリー内で移動されたユーザを追跡する機能はありません。

回避策 : ZENworks Endpoint Security Management に新しいユーザを設定します。

2.8 Microsoft Active Directory のディレクトリサービスの設定

この項では、New Directory Service Wizard(新しいディレクトリサービスウィザード)を使用して、Microsoft Active Directory のディレクトリサービスを設定する方法について説明します。詳細については、「[Microsoft Active Directory のディレクトリサービスの設定](#)」を参照してください。 ”

- ◆ 8 ページの「[Active Directory 設定用のドメインコントローラの必要条件](#)」
- ◆ 8 ページの「[設定の前にドメインにログインしていることを確認する](#)」

2.8.1 Active Directory 設定用のドメインコントローラの必要条件

Active Directory 設定用のドメインコントローラは、Windows Server 2000 SP4 または Windows Server 2003 を実行している必要があります。

2.8.2 設定の前にドメインにログインしていることを確認する

Active Directory のディレクトリサービスを設定する前に、ドメインにログインする必要があります。

2.9 エンドポイントセキュリティの確保

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のウイルス対策およびスパイウェアルールを使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

2.9.1 ウイルス対策およびスパイウェアルールの使用

ZENworks Endpoint Security Management にプレインストールされているウイルス対策およびスパイウェアルールの中には、特定のバージョンやカスタムインストールバージョンのウイルス対策ソフトウェアまたはスパイウェアソフトウェアに合わせて修正が必要になるものがあります。

2.10 ファイアウォール

この項では、ZENworks Endpoint Security Management をファイアウォールと共に使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 9 ページの「動的に割り当てられたポートの使用」
- ◆ 9 ページの「FTP セッションの使用」

2.10.1 動的に割り当てられたポートの使用

ZENworks ファイアウォールは、ほとんどのモードで、動的に割り当てられたポートへの着信接続を拒否します。アプリケーションで着信接続が必要な場合は、ポートを静的に割り当て、[Open(オープン)] に設定したファイアウォール設定を作成して、着信接続を許可する必要があります。着信接続が既知のリモートデバイスからのものである場合は、ACL を使用できます。

2.10.2 FTP セッションの使用

デフォルトの [すべて適応(ステートフル)] ファイアウォール設定では、アクティブ FTP セッションが拒否されるため、パッシブ FTP セッションを使用する必要があります。アクティブ FTP とパッシブ FTP の詳細については、[Slacksite の Web サイト \(http://slacksite.com/other/ftp.html\)](http://slacksite.com/other/ftp.html) を参照してください。

2.11 ローカリゼーション

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のローカライズに関連する問題について説明します。

- ◆ Endpoint Auditing Reporting(エンドポイント監査レポート) の項目や説明には、翻訳されていないものがあります。

- ◆ [Endpoint Auditing Reporting(エンドポイント監査レポーティング)] の [レポート] ダイアログボックスには、翻訳されていない文字列があります。
- ◆ [レポート] タブの下のツリービューには、翻訳されていないテキストがあります。
- ◆ 管理サービスのインストーラで、インストールの種類を選択するラジオボタンには、途中で切れているものがあります。
- ◆ 管理コンソールのレポートには途中で切れているものがあります。
- ◆ ポリシー配布サービスのデフォルトのインストールパスには、漢字が含まれていません。
- ◆ ZENworks Security Client のインストールをキャンセルするためのタブには、翻訳されていないものがあります。
- ◆ STEngineのアプリケーションイベントログの説明は、中国語(繁体字)または中国語(簡体字)では空白になります。
- ◆ アンインストールの際のパスワード入力プロンプトは英語です。

2.12 管理コンソール

この項では、ZENworks Endpoint Security Management の管理コンソールを使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 10 ページの「Active Directory での管理コンソールの使用」
- ◆ 10 ページの「エラーメッセージの表示」
- ◆ 10 ページの「既存の整合性ルールの関連付けに関係している可能性のある例外」
- ◆ 10 ページの「デュアルデバイスとしてインストールされるネットワークデバイスにポリシーが適用されない可能性がある」
- ◆ 10 ページの「アクセス許可オプションと制御は、管理コンソール内では使用できない」

2.12.1 Active Directory での管理コンソールの使用

Microsoft Active Directory をディレクトリサービスとして使用する場合、管理コンソールを使用するにはドメインにログインする必要があります。

2.12.2 エラーメッセージの表示

管理コンソールでエラーメッセージをクリックしても、正しい画面が表示されない場合があります。この制限は、複数のタブがある画面で発生します。

2.12.3 既存の整合性ルールの関連付けに関係している可能性のある例外

ポリシーを発行する前にすべてのトリガ、イベント、ファイアウォールなどを検証しないと、既存の整合性ルールの関連付けに関係した例外が発生する可能性があります。この場合、ポリシーは失敗し、次のエラーが表示されます。

```
"Senforce.PolicyEditor.Bll.FatalErrorException:component_value table in unknown state" "at Senforce.PolicyEditor.UI.Forms.PolicyForm.SavePolicy()" "at Senforce.PolicyEditor.UI.Forms.MainForm.PublishPolicy()"
```

回避策：管理コンソールの各ページで、次のページに進む前に、すべてのオプションが設定されていることを確認してから [ポリシーの保存] をクリックします。

2.12.4 デュアルデバイスとしてインストールされるネットワークデバイスにポリシーが適用されない可能性がある

デュアルデバイスとしてインストールされるネットワークデバイス (モデムと無線 (802.11) など) が HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\Network Cards レジストリエントリに表示されないことがあります。この場合、そのデバイスにはポリシーが適用されません (ファイアウォールまたはアダプタ制御)。

2.12.5 アクセス許可オプションと制御は、管理コンソール内では使用できない

アクセス許可オプションと制御は現時点では正しく動作しないため、アクセス許可オプションと制御は削除されています。ユーザから管理コンソールの許可を削除した場合、その削除はユーザの管理コンソールセッションが終了するまで有効になりません。

回避策：パスワードを設定し、アクセス許可を制御することで、管理コンソールを実行しているコンピュータへのユーザアクセスを制御します。

2.13 ネットワーク環境

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を使用してネットワークを管理する際に発生する可能性がある問題について説明します。

2.13.1 アダプタ固有のネットワーク環境の使用

無効になるアダプタ固有のネットワーク環境を使用すると、クライアントは、その環境が割り当てられている場所と不明な場所との間の切り替えを繰り返す可能性があります。これを防ぐには、ネットワーク環境のアダプタタイプを、その場所で有効なアダプタに設定します。

2.14 レポート

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のレポートの使用について説明します。

- ◆ 順守レポートには正しくない、または欠けているデータがあります。
- ◆ ポリシーレポートには欠けているデータがあります。

2.15 Storage Devices

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を使用してストレージデバイスを管理する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 11 ページの「USB デバイスの制御」
- ◆ 11 ページの「CD/DVD デバイスの制御」
- ◆ 11 ページの「管理コンソールで、ストレージデバイスの制御設定をロケーションごと保存できない」

2.15.1 USB デバイスの制御

すべての USB ディスクドライブにシリアル番号があるとは限りません。ポートとドライブの組み合わせに依存するシリアル番号や、一意ではないシリアル番号を持つディスクドライブが存在する場合があります。ほとんどの USB メモリには、一意であると思われるシリアル番号が付いています。

2.15.2 CD/DVD デバイスの制御

ZENworks Security Client をインストールした後に、CD/DVD 書き込みデバイスを増設する場合、Roxio* や Nero* などのサードパーティの書き込みソフトウェアを使用していると、そのデバイスに読み取り専用許可を指定するポリシーは適用されなくなります。

2.15.3 管理コンソールで、ストレージデバイスの制御設定をロケーションごとに保存できない

[ロケーション] タブでストレージデバイスの制御設定を設定する場合、設定を保存することはできません。この問題を修正するパッチと手順については、サポート担当者にお問い合わせください。[グローバルポリシー設定] タブでストレージデバイスの制御設定を設定する場合は、この問題は発生しません。

2.16 アンインストール

この項では、ZENworks Endpoint Security Management のアンインストール時に発生する可能性がある問題について説明します。

2.16.1 セーフハーバーが有効な状態での ZENworks Endpoint Security Management のアンインストール

セーフハーバーが有効で、ポリシーを使用してアンインストールを行う場合、固定ディスクのファイルを復号化するように求められます。[OK] をクリックした後で、ディレクトリの削除が失敗したというメッセージが表示されることがあります。このメッセージは消去されません。

回避策：デバイスを再起動してからアンインストールプログラムを再度実行する必要があります。

2.17 アップグレード

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を以前のバージョンからアップグレードする時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 12 ページの「アップグレードの前にカスタマサポートに連絡する」
- ◆ 12 ページの「サーバアップグレードはサポートされない」
- ◆ 12 ページの「Senforce Endpoint Security Suite のポリシーエディタの以前のバージョンは、バージョン 3.5 ではサポートされない」
- ◆ 13 ページの「Senforce 3.2 のポリシーをアップグレードするとパスワードの上書きが失われる」

- ◆ 13 ページの「管理対象デバイスでの ZENworks Security Client のアップグレード」
- ◆ 13 ページの「Senforce クライアントビルドからのクライアントアップグレードはサポートされない」

2.17.1 アップグレードの前にカスタマサポートに連絡する

アップグレードについて不明な点がある場合は、サポート担当者に問い合わせてください。

2.17.2 サーバアップグレードはサポートされない

このリリースに含まれている修正および新機能のため、ZENworks Endpoint Security Server のアップグレードはサポートされていません。システムのアップグレードに関しては、サポート担当者に問い合わせてください。サポート担当者は、以前のバージョンからのセキュリティポリシーを保持する方法について支援します。

2.17.3 Senforce Endpoint Security Suite のポリシーエディタの以前のバージョンは、バージョン 3.5 ではサポートされない

Senforce[®] Endpoint Security Suite のポリシーエディタの以前のバージョンは、ZENworks Endpoint Security Management 3.5 サーバのインストールに対して実行することはできません。

2.17.4 Senforce 3.2 のポリシーをアップグレードするとパスワードの上書きが失われる

既存の Senforce Endpoint Security Suite 3.2 のポリシーをバージョン 3.5 のポリシーにアップグレードすると、パスワードの上書きが失われます。バージョン 3.2 のポリシーにパスワードの上書きが含まれる場合は、バージョン 3.5 のポリシーを発行する前に、パスワードの上書きを再入力する必要があります。これは仕様によるものです。

2.17.5 管理対象デバイスでの ZENworks Security Client のアップグレード

管理対象デバイスで ZENworks Security Client を手動でアップグレードするには、次の例に示すように、-stupgrade スイッチを使用する必要があります。

```
setup.exe /V"STUPGRADE=1"
```

ZENworks Endpoint Security Management ポリシーを使用して ZENworks Security Client をアップグレードする場合は、このスイッチは不要です。

2.17.6 Senforce クライアントビルドからのクライアントアップグレードはサポートされない

Senforce Endpoint Security クライアントを Novell ZENworks Endpoint Security クライアントにアップグレードすることはできません。

2.18 VPN 接続

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を使用して VPN 接続を管理する際に発生する可能性がある問題について説明します。

2.18.1 VPN の設定

ZENworks Endpoint Security Management は、VPN 設定時のスプリットトンネルをサポートしていません。

2.19 Wi-Fi 接続

この項では、ZENworks Endpoint Security Management を使用して Wi-Fi 接続を管理する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 13 ページの「Wi-Fi 転送およびアダプタブリッジを無効にするカスタムメッセージをユーザに表示する」
- ◆ 14 ページの「WPA アクセスポイントの使用」
- ◆ 14 ページの「携帯電話の制御」
- ◆ 14 ページの「管理コンソールで、Wi-Fi 設定をロケーションごとに保存できない」
- ◆ 14 ページの「サポートの対象にならない Wi-Fi デバイス」

2.19.1 Wi-Fi 転送およびアダプタブリッジを無効にするカスタムメッセージをユーザに表示する

[Wi-Fi 転送を無効にする] および [アダプタブリッジを無効にする] メッセージは、エンドユーザがこれらの強制を回避しようとした場合にのみ表示されます。これらの動作は、警告メッセージを表示することなく適用されます。

2.19.2 WPA アクセスポイントの使用

WPA アクセスポイントを識別してフィルタリングできます (WPA と WPA2 は区別されません)。ZENworks Endpoint Security Management では、WEP キーのみが配布されます。

2.19.3 携帯電話の制御

管理コンソールの Wi-Fi 制御機能を使用して、携帯電話経由で行われた無線接続を制御できないことがあります。これらのデバイスは通常、オペレーティングシステムによってモデムとして取り扱われるため、モデムを制御するためのポリシーを変更する必要があります。たとえば、スクリプトを使って有線接続されたモデムは無効にするようにします。

2.19.4 管理コンソールで、Wi-Fi 設定をロケーションごとに保存できない

[ロケーション] タブで Wi-Fi 設定を行う場合、設定を保存することはできません。この問題を修正するパッチと手順については、サポート担当者に問い合わせてください。[グローバルポリシー設定] タブで Wi-Fi 設定を行う場合、この問題は発生しません。

2.19.5 サポートの対象にならない Wi-Fi デバイス

古い無線アダプタの中には、ZENworks Endpoint Security Management で管理する際に正しく機能しないものがあります。これには、次のデバイスがあります。

- ◆ Orinoco* 8470-WD Gold
- ◆ 3Com* 3CRWE62092B

- ◆ Dell True Mobile 1180
- ◆ Proxim* Orinoco 802.11bg コンボカード

2.20 ZENworks Endpoint Security Client

この項では、管理対象のデバイスで ZENworks Endpoint Security Client を使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 14 ページの「Windows タスクバーに 2 つの ZENworks Endpoint Security Client アイコンが表示される」
- ◆ 15 ページの「ZENworks Security Client のインストール後に、クライアントにログインするように求められる」

2.20.1 Windows タスクバーに 2 つの ZENworks Endpoint Security Client アイコンが表示される

ZENworks Endpoint Security Client マシンを起動すると、Windows タスクバーに ZENworks Endpoint Security Client アイコンが 2 つ表示される場合があります。どちらかのアイコンの上にマウスを置くと、そのアイコンを消すことができます。

2.20.2 ZENworks Security Client のインストール後に、クライアントにログインするように求められる

ZENworks Endpoint Security Management Server にログインする際、資格情報 (ユーザ名、あるいは短縮形または完全な LDAP コンテキスト) の入力を求められることがあります。これは、ZENworks Security Client をインストールした後にのみ一度だけ表示されます。この問題の原因として、次のことが考えられます。

- ◆ バックエンドサーバが Novell eDirectory 上に存在する。
- ◆ ユーザがドメインを介さずに、ローカルにコンピュータにログインしている。
- ◆ ユーザが Microsoft Windows ではなく NetWare® を経由してログインしている。
- ◆ 管理者がインフラストラクチャの認証ディレクトリのセットアップで、ユーザまたはコンピュータが存在するコンテナを追加するための検索コンテキストを正しく設定していない。
- ◆ コンピュータまたはユーザの SID が無効になっているため、新しい SID を作成する必要がある。
- ◆ ユーザが eDirectory や Active Directory と直接通信せずに、Windows のディレクトリサービスを使用している。
- ◆ ZENworks Configuration Management Client が Dynamic Local User(DLU) 機能を使用しており、一時的ユーザが有効になっている。

注: 複数の eDirectory ユーザが、同じローカル管理者ユーザアカウントを使用してコンピュータにログインしている場合、すべてのユーザに同じポリシーが適用されます。各 eDirectory ユーザには、固有のローカルユーザアカウントが必要です。

3 マニュアルの表記規則

このドキュメントでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します？

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

4 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認して、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認して、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2008 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に統合されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。